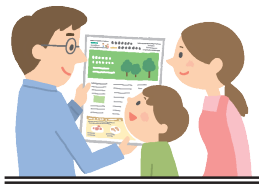


明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム放射能レポート

pal*system

2026年2月4回

定期配付は今回で終了です

未来へつなぐ想い。心の灯を絶やさない。

2011年に発生した東日本大震災。
いわき市でもっとも被害が大きかった薄磯地区は
津波により家々は流され、浜辺はがれきの山に。
何事もなかったように穏やかなこの街並みも
震災前を知る人からすれば似ても似つかぬ景色です。
ひと目見ただけではわからない現地の今を知るために
パルシステム東京では「スタディツアー」を行っています。

▼いわき震災伝承みらい館

立花 優貴子 職員

パルシステム東京職員。着任2年目。震災当時はまだ高校2年生だった。

岩崎 緩子（やすこ） 職員

パルシステム東京職員。着任10年以上。被災地のスタディツアーに初回から同行してきた。

「いわき震災伝承みらい館」近隣の街並み

パルシステム東京は、被災地を訪ねる学びの旅「福島スタディツアー」を開催しています。今回はツアーに10年以上携わってきた岩崎職員と着任二年目の若手・立花職員のふたりに思いのたけを語ってもらいました。

はじめて「親子参加」を銘打ち開催した被災地のスタディツアー

岩崎職員は2013年に行われた当初から同行を続けてきました。

「震災から15年がたちますが、この未曽有の災害が収束するにはまだまだ長い時間が必要でしょう。取り壊されてしまったものも多いですが、被災地には今なお多くの遺構が残っています。」

しかし、実際に被災地まで足を運ぶ人は年々少なくなっています。

「2024年に初めて『福島』の親子参加型ツアーを企画しました。夏の平和スタディツアーヒロシマ・ナガサキは親子参加が多いのですが、このツアーでも多世代の組合員さんに東日本大震災にまつわるヒトやモノと関わる機会を提供したいと思ったんです」

もうひとりの同行者、立花職員にとっては初参加となるスタディツアー。報道されない被災地の「今」を目の当たりにしました、とツアー当時を振り返ります。

「津波に流され汚れたランドセルを見た小学5年生くらいのお子さんの、悲しいというより衝撃を受けたような表情が今でも記憶に残っています。でも、こうして継承されたものは誰かの心に響くんだなって考えさせられました」

被災地、被災者とのつながりは形を変えながら続いています

ツアーのほか、パルシステム東京では「NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」と提携し、毎年甲状腺※検診も行っています。立花職員も着任一年目で初めて甲状腺検診も受けたそう。

「検診やスタディツアーの同行を経験し、甲状腺がんを憂う組合員の気持ちがわかったような気がします」

東日本大震災から15年がたち、行政でも民間でも被災者・避難者への支援は減ってきました。「でも、甲状腺検診は続けてほしいという組合員の声もあるんです」と話す立花職員に岩崎職員も続けます。

「今でも毎年検診を受けに来る方がいます。顔馴染みの検診医に会って話を聴くことが安心につながるようです。必要とする方がいるかぎり、続ける意義があると感じます」

昨年度の開催をもって、福島スタディツアーの定期開催は終了しました。一つひとつの活動は終わりを迎えますが、助けを必要とする人がいるかぎりその時その場所に応じて形を変え、支援の取り組みは続いていきます。

「次世代に震災の記憶を継承していくために直接足を運ぶ以外の関わり方を模索し、被災地とつながり合う新しい支援が実現できればいいな、と考えています。そして、今後はこの想いを若い職員が継いでいってくれたらうれしいです」

※のど仏の下にある甲状腺に腫瘍がないか超音波で行う検査

写真左）「おれたちの伝承館」写真家・中筋純氏らによる南相馬市の私設美術館です。
写真右）「震災遺構 請戸小学校」校内は津波に飲まれた状況がありのまま残されています。

親子で学び旅「福島スタディツアー2024」の行程

1日目

南相馬市
「おれたちの伝承館」
⬇
浪江町
「震災遺構・浪江町立請戸小学校」
⬇
双葉町
「東日本大震災・原子力災害伝承館」

2日目

いわき市
「いわき放射能 市民測定室たらちね」

⬇
いわき市
「いわきワンダーファーム」
⬇
いわき市
「いわき震災伝承みらい館」

パルシステム東京のHPではより詳しく紹介しています

パルシステムは放射能問題に今後も取り組み続けます。

2011年の東日本大震災後、パルシステムでは放射能汚染に関するガイドライン（自主基準）を策定し独自の放射能検査を続けています。検査結果は毎週公表、検出された場合は産地と連携し低減に取り組んできました。そのほかにも、風評被害対策、甲状腺検診、被災者支援、スタディツアーなど多角的に放射能問題と向き合ってきました。震災から15年、パルシステムの取り組みを紹介します。

原発事故以降、放射能に関する主な動き

2011年3月
東日本大震災、
東京電力福島第一原子力発電所事故発生
東日本大震災による津波で電源を喪失し、1〜3号機が炉心溶融（メルトダウン）に至る未曽有の事故。国内すべての原発の安全対策見直し、停止へ。

2012年5月
国内の稼働原発がゼロに。同年9月に原子力規制委員会発足

2015年8月
川内原発の再稼働
九州電力川内原子力発電所1号機（鹿児島県）が、全国で最初の再稼働。

2016年12月
運転期間延長の審査開始
規制委員会の審査を経て最長60年まで延長できる制度を初めて適用。

2023年2月
GX基本方針の閣議決定
政府によるGX基本方針により原子力政策の大転換へ。

2023年8月
ALPS処理水の海洋放出開始
ALPS処理水を海水で大幅に希釈し、海底トンネルを通じて沖合へ放出。

2025年2月
第7次エネルギー基本計画を閣議決定
第7次エネルギー基本計画で、原発の最大限活用へ向け方針転換。

2011　2025　2030

パルシステムの放射能問題への取り組み

2011年12月
お知らせチラシ
『カタログ掲載商品の放射能情報』に毎週掲載
放射能検査結果を毎週お知らせ。ほかにも、被災地への物資供給、組合員カンパなど復興支援を実施。

2012年11月
「被災地の新しい『明日』カンパ」開始
「福島の子どもたち保養」、「南三陸地域再生とまちづくり」を目的とした支援プログラムがスタート。現在も「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」として募金を継続中。

2013年10月
各生協で「福島スタディツアー」をスタート
パルシステム東京での開催を皮切りに、各地の生協で開催している。

2014年4月
希望者に「放射能関係のお知らせ」を配付
商品検査センターでの放射能検査の結果を、毎週希望者に配付。

2016年12月
「放射能レポート」を配付。
「放射能関係のお知らせ」はウェブに
放射能にまつわるさまざまな情報、取り組みを紹介する媒体として、放射能レポートがスタート。

2019年7月
「放射能レポート」と「きぼうのでんき」が合同紙面に

2023年11月
ALPS処理水放出に伴い、商品の放射能検査にトリチウム検査を追加

これからのパルシステム
組合員活動や市民団体への助成を通じて地域社会ともつながり続けてきたパルシステム。震災から得た教訓や、その後の被災地・被災者支援から得た学びを生かし、地域のセーフティネットの構築や防災意識の形成など、すべての人にとって暮らしやすい社会をめざします。

「放射能検査のお知らせ」ページから引き続き情報を発信し続けます。

今回で放射能レポートの配付が終わります。

これまでご覧いただきありがとうございました。
パルシステムの放射能検査情報をはじめ、被災者支援団体の紹介や放射能に関する基礎知識など、さまざまな情報をお伝えしてきました。

今後は公式サイトの「放射能検査のお知らせ」ページでの情報発信に一本化いたします。

お知らせページのリニューアルも計画中です。震災から15年がたちますが、今後もパルシステムでは放射能問題を注視し、食とくらしの安全を守る取り組みを継続してまいります。

インターネットから見られない方は、下記よりお問い合わせをお願いします

パルシステム問合せセンター
0120-868-014　月〜金曜日：9時〜20時　土曜日：9時〜17時

※通話料は無料です。
※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

公式サイトから見る場合

❶公式サイトを開く
❷トップ画面を下にスクロールする
❸「News お知らせ」から「放射能検査のお知らせ」を探してクリックする

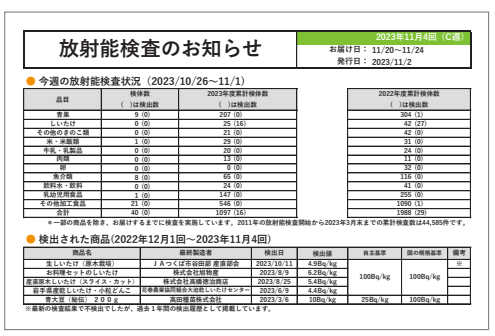
注文アプリから見る場合

❶トップ画面の「メニュー」をタップする
❷「メニュー」画面の「商品関連情報」をタップする
❸「商品関連情報」画面の「放射能検査結果」をタップする

検索して見る場合

放射能　お知らせ　パルシステム

「お知らせ」のページはこちらのQRコードからもアクセスできます



放射能検査のお知らせ　2023年11月4回（C週）
お届け日：11/20〜11/24
発行日：2023/11/2

● 今週の放射能検査状況（2023/10/26〜11/1）

品目	検体数（ ）は検出数	2023年度累計検体数（ ）は検出数	2022年度累計検体数（ ）は検出数
青果	9（0）	207（0）	304（1）
しいたけ	0（0）	25（16）	42（27）
その他のきのこ類	0（0）	21（0）	42（0）
米・米穀類	1（0）	29（0）	31（0）
牛乳・乳製品	0（0）	20（0）	24（0）
肉類	0（0）	13（0）	11（0）
卵	0（0）	9（0）	32（0）
魚介類	8（0）	65（0）	116（0）
飼料米・穀料	0（0）	24（0）	41（0）
乳幼児用食品	1（0）	147（0）	255（0）
その他加工食品	21（0）	546（0）	1090（1）
合計	40（0）	1097（16）	1988（29）

＊一部の商品を除き、お届けするまでに検査を実施しています。2011年の放射能検査開始から2023年3月末までの累計検査数は44,585件です。

● 検出された商品(2022年12月1回〜2023年11月4回)

商品名	最終製造者	検出日	検出値	食品基準	国の規格基準	備考
生しいたけ（原木栽培）	ＪＡつくば市谷田部 産直部会	2023/10/11	4.9Bq/kg	100Bq/kg	100Bq/kg	※
お料理セットのしいたけ	株式会社結物産	2023/8/9	6.2Bq/kg			
産直原木しいたけ（スライス・カット）	株式会社高橋商品商店	2023/8/25	5.4Bq/kg			
岩手県産乾しいたけ・小粒どんこ	岩手県産業協同組合大迫乾しいたけセンター	2023/6/9	4.4Bq/kg			
青大豆（秘伝）２００ｇ	高田種苗株式会社	2023/3/6	10Bq/kg	25Bq/kg	100Bq/kg	

※最新の検査結果で不検出でしたが、過去１年間の検出履歴として掲載しています。